

第2章 がんを取り巻く現状

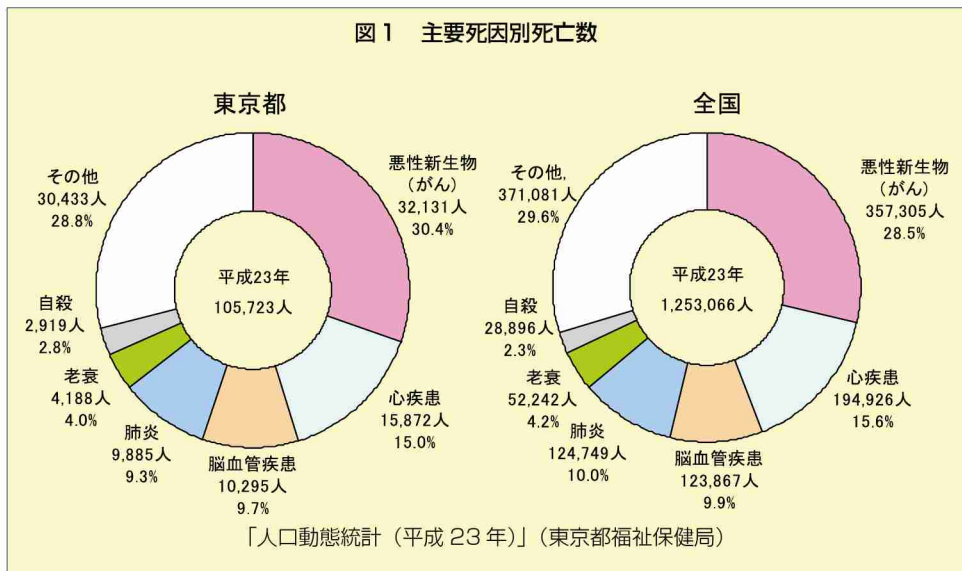
1 東京都のがんの状況

東京都のがんの特徴

- 3人に1人ががんで死亡、死亡数の約8割を65歳以上の高齢者が占める。
- 年齢調整死亡率は、これまでの5年間で9.0%減少した。
- 全国と比較すると、男性の死亡率は下回っているが、女性の死亡率は上回っており、特に乳がんによる死亡率が高くなっている。

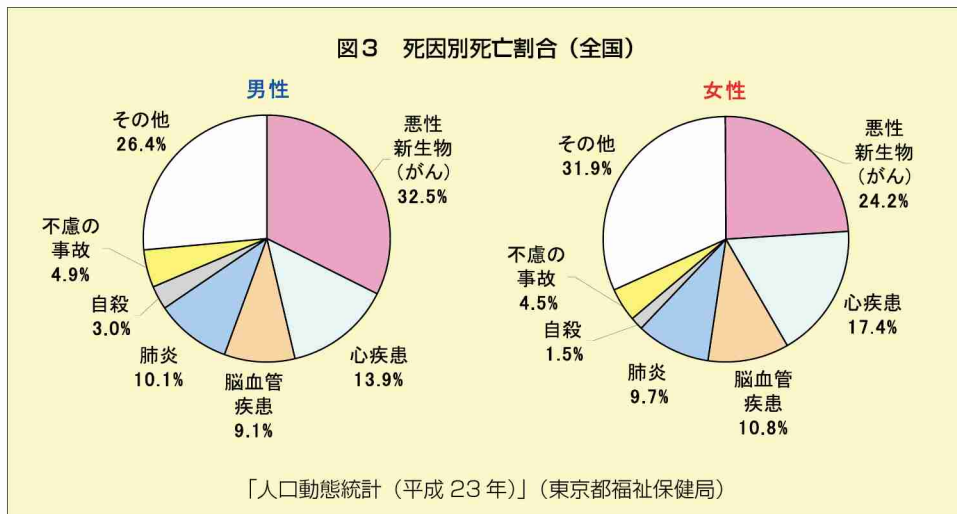
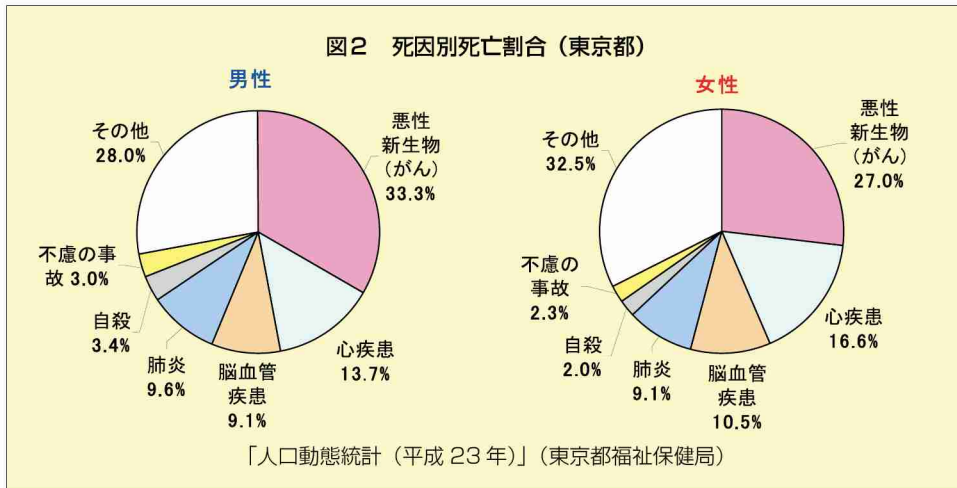
(1) 3人に1人ががんで死亡、死亡者数の約8割が65歳以上

都民の全死亡者 105,723 人の内、がんによる死亡者は 30.4% を占め、およそ 3 人に 1 人ががんで亡くなっています。全国の割合は 28.5% となっており、都の方がやや高くなっています (図 1 参照)。

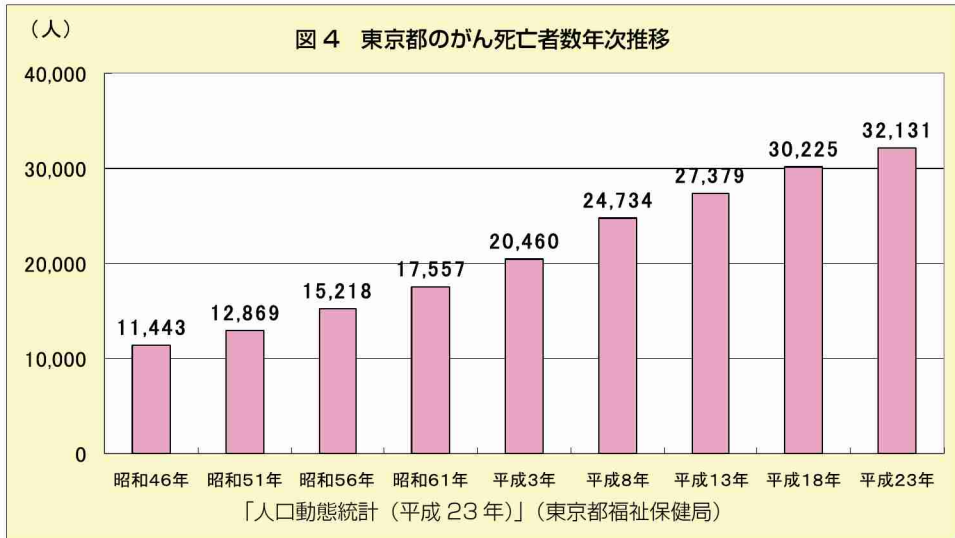


※ 本計画の各図表の値は、四捨五入により算出しているため、図表中に記載している割合を合計しても 100% にならない場合があります。

また、性別に見ると、男性では全体の33.3%、女性では27.0%を占めています。全国の割合は、男性32.5%、女性24.2%となっており、男女とも都の方がやや高くなっています（図2・3参照）。



がんによる死亡者数は年々増加しており、平成23（2011）年の死亡者数は32,131人で、昭和61（1986）年の約2倍となっています（図4参照）。



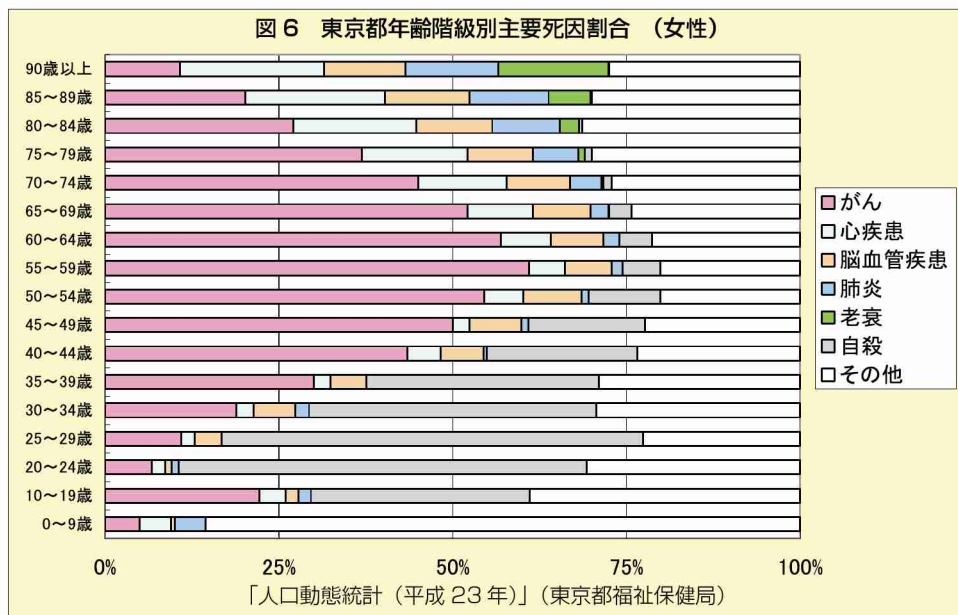
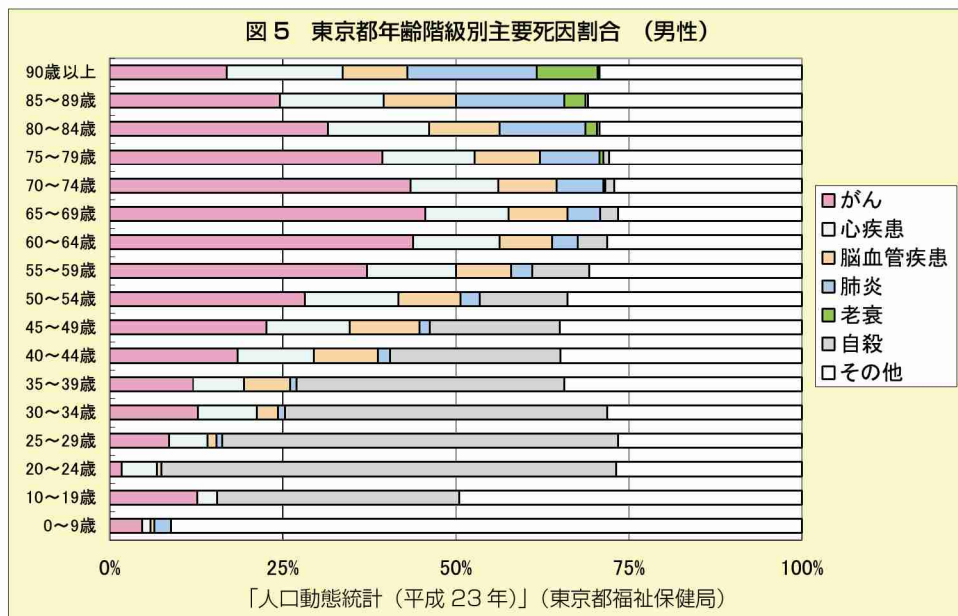
都における部位別の死亡者数を見ると、男性では、肺がん、胃がん、大腸がん、肝がんの順に多く、女性では大腸がん、肺がん、乳がん、胃がんの順に多く、全国と比較して、女性の乳がんの割合が多い傾向にあります（表1参照）。

表1 全国と東京都のがんによる死亡者数（部位別）

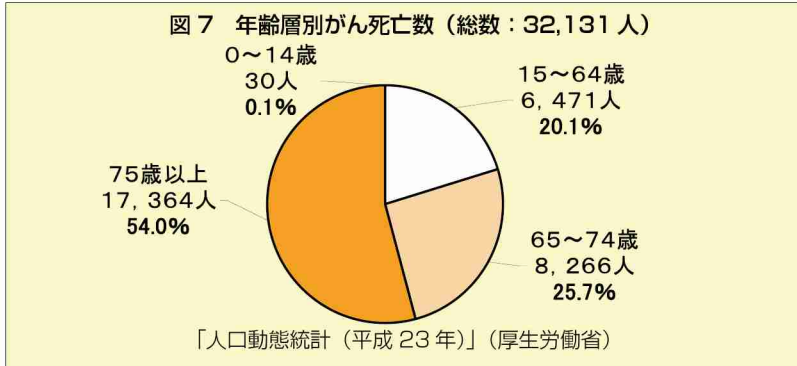
	●全国 357,305人				●東京都 32,131人							
	男性 213,190人(59.7%)		女性 144,115人(40.3%)		男性 18,865人(58.7%)		女性 13,266人(41.3%)					
1位	肺がん	50,782人	23.8%	大腸がん	20,882人	14.5%	肺がん	4,214人	22.3%	大腸がん	1,919人	14.5%
2位	胃がん	32,785人	15.4%	肺がん	19,511人	13.5%	胃がん	2,952人	15.6%	肺がん	1,842人	13.9%
3位	大腸がん	24,862人	11.7%	胃がん	17,045人	11.8%	大腸がん	2,323人	12.3%	乳がん	1,494人	11.3%
4位	肝がん	20,972人	9.8%	膵がん	14,004人	9.7%	肝がん	1,786人	9.5%	胃がん	1,440人	10.9%
5位	膵がん	14,825人	7.0%	乳がん	12,731人	8.8%	膵がん	1,306人	6.9%	膵がん	1,260人	9.5%
6位	前立腺がん	10,823人	5.1%	肝がん	10,903人	7.6%	前立腺がん	1,048人	5.6%	肝がん	890人	6.7%
7位	食道がん	10,141人	4.8%	胆がん	9,300人	6.5%	食道がん	1,045人	5.5%	胆がん	690人	5.2%
8位	胆がん	8,886人	4.2%	子宮がん	6,075人	4.2%	胆がん	713人	3.8%	子宮がん	620人	4.7%

「人口動態統計（平成23年）」（厚生労働省、東京都福祉保健局）

年齢階級別に死因の構成割合を見ると、男性では40歳代後半、女性では40歳代前半からがんが死因の第1位となり、男性では60歳代後半、女性では50歳代後半で死因に占める割合が最も高くなっています（図5・6参照）。



がんの死亡者数を年齢層別に見ると、65歳以上の高齢者が約8割を占めています（図7参照）。



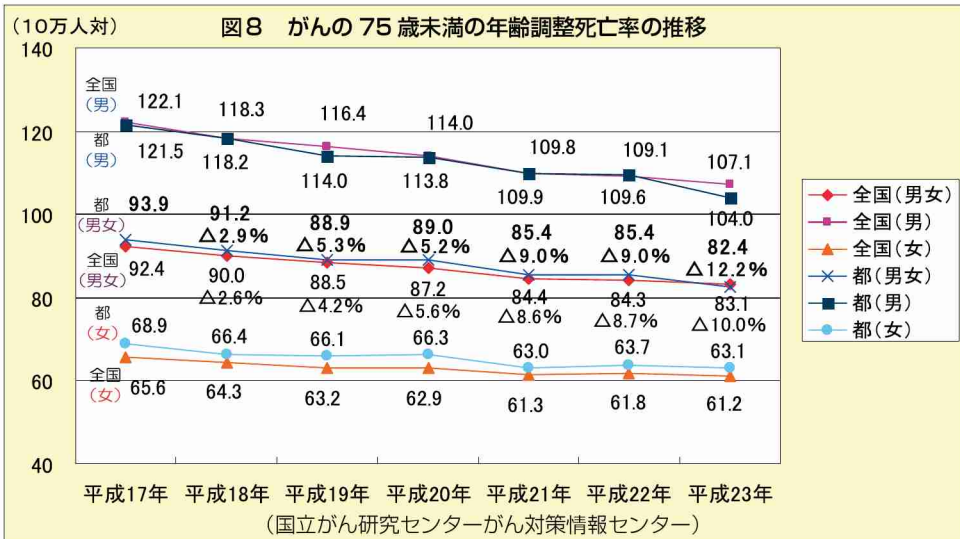
（2）がんの年齢調整死亡率は、これまでの5年間で9.0%減少

がんの75歳未満年齢調整死亡率については、平成20（2008）年度からの10年間で20%減少させることを全体目標としています。

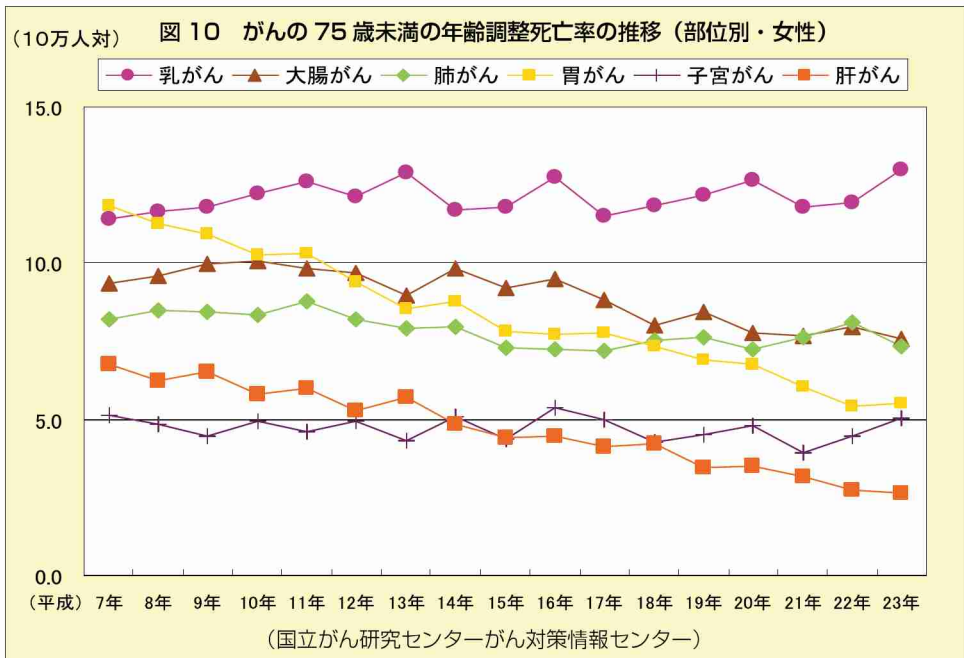
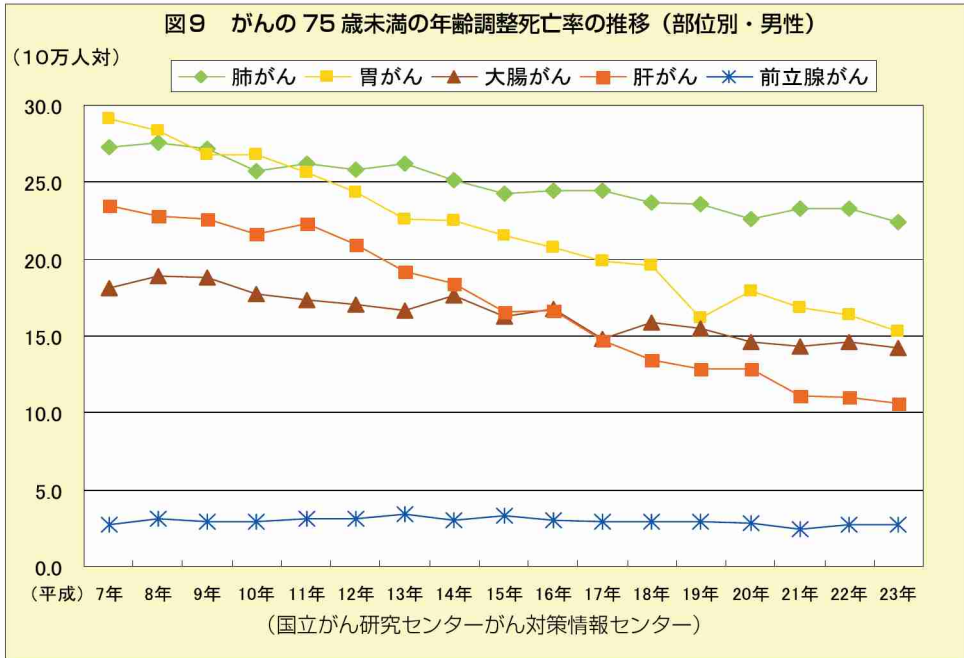
平成17（2005）年では、男女全体で93.9であったものが、5年後の平成22（2010）年では85.4となり9.0%減少し、平成23（2011）年では82.4となり、12.2%減少しています。

全国については、平成17（2005）年が92.4であったのが、平成23（2011）年では83.1と10.0%減少しています。

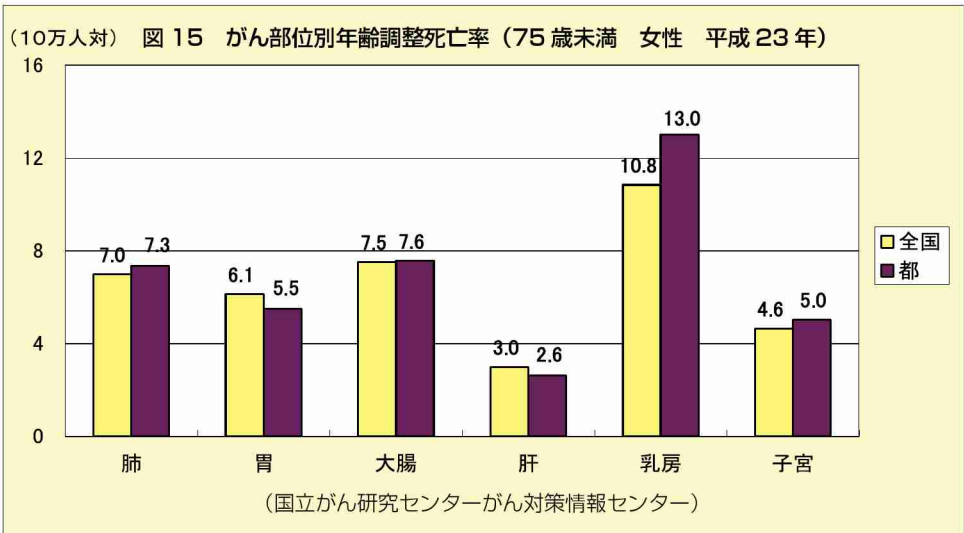
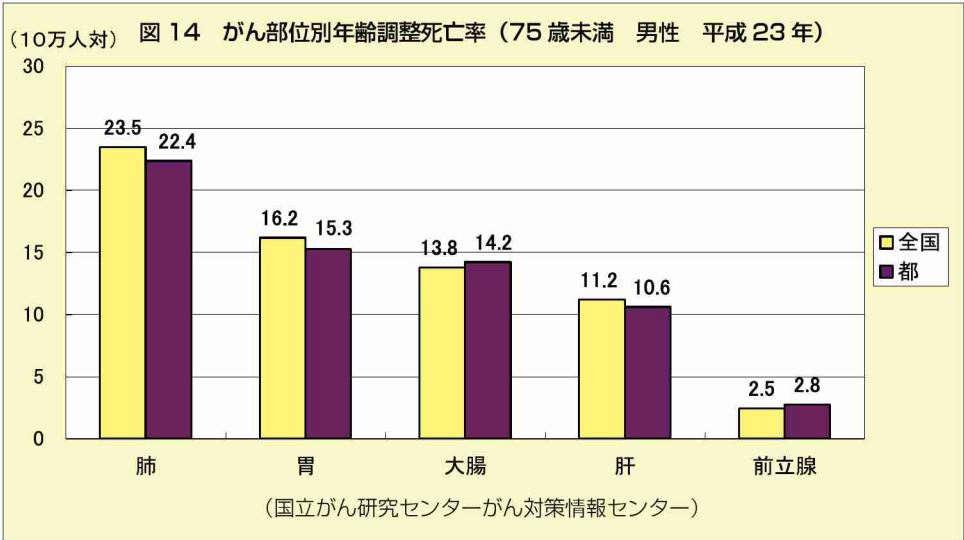
両者を比較すると、都の死亡率の方が低く、死亡率の減少の幅も大きくなっています（図8参照）。



がんの部位別に死亡率の推移を見ると、男性では肺がん、胃がん、肝がんによる死亡率が減少しています。女性については胃がん、肝がんは減少傾向にあります。肺がん、大腸がん、子宮がんではあまり減少しておらず、乳がんでは増加しています（図9・10参照）。



さらに、がんの部位別の75歳未満年齢調整死亡率について男女別に全国と比較すると、男性では、大腸がんと前立腺がんで、女性では、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がんで全国よりも高くなっています（図14・15参照）。



なお、部位別のがんの死亡者数を75歳未満と75歳以上で分けた場合、子宮がん・乳がんの75歳未満の死亡者が6割以上となっています(図17参照)。

